

# 藝園と草牧



昭和二十六年  
十一月  
雪印種苗株式會社  
農場

第八卷・第十一号

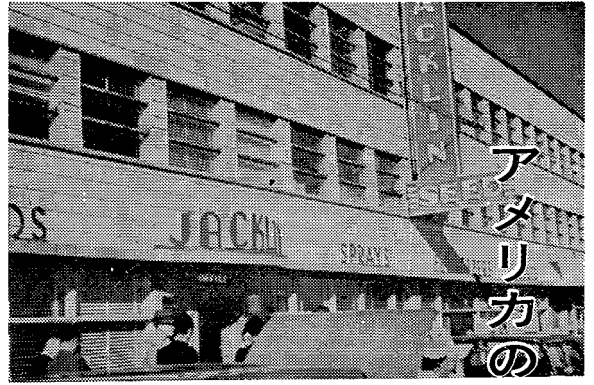
昭和三十五年十一月一日(毎月一回)出版

雪印種苗株式會社

# アメリカの草地みてある記

その(五)

上家 富成



ジャックリン種苗会社はワシントン州最大の会社でスポケーン市に在る(写真はその店舗)採種所有面積約四四〇町歩、一、〇〇〇フィートのコンバイン九台を有し灌漑は一分間八、五〇〇ガロン水量の設備を誇っている。

## ワシントン州へ

自動車旅行の連続だったウイスコンシン州に別れ太平洋岸のワシントン州へ移動したのが九月二十六日である。この日天候悪くミネアポリスの乗換えも遅れ行先を案じていたが、幸いボーイング二階型超弩級機出発、二度もシャッペンが出たり団体客がトランプ博打に興じたりしている中にロッキー山脈も無事飛び越えてスポケーン空港に到着した。この日の飛行時間は九時間、相当なものである。来る時は東へ東へと朝日を迎え、今日は西へ西へと夕日を送ってアメリカ大陸の北部を横断し、それだけ故国に近寄ったのだから何となく心強い次第であった。しかし閉口したのは、余り

遅れたので目的地ブルマンへの連絡機が無くなったことである。そこで交渉の結果ノースウエスト航空会社負担で、ホテル・ダベンポートに一泊することになったのだが、このスポケーン空港待合室で図らずも姉弟二人の日本人青年を助ける大手柄を演じたのである。それはわれわれが飛行機を降りてがらんと人気の無い待合室に入った時、そこに居た日本人らしい二人に何気なく話しかけたのがきっかけであった。話では、夏休みを利用して映画を持って廻っていた。そして今夜シャトルから羽田へ帰るのだが乗る飛行機が大変遅れたのでここで待っているのだという。とんでもない話で、その飛行機とは今われわれが降りたそのものなのだ。さあ大変、ボーイング機の姿はすでにそこに無く、一刻を争う通訳の仕事場になり大交渉が始まった。そしてろくに会話もできない若い姉弟が神に助けられたと表現

したいのは、飛行機との連絡に成功し、この二人を乗せるためにボーイングが戻つて来たというアメリカならではの話である。青くなつたり赤くなつたりした二人を見送つて、われわれは彼等が日本人であつただけに、本当に良かったと心から喜びあつたのであつた。翌朝ワシントン州立大学の所在地ブルマンのホテル・ワシントンに到着きいよいよ大陸最終の研修に入ったのである。

## ワシントン 州立大学での講義

九月の新学期から総合大学に昇格したこの初日は九月二十八日で Dr. Blosser のサイロとサイレンジに関する講義、次いで土壌学主任教授 Dr. Betvansson の州農業の概況であつた。

すなわちワシントン州

は合衆国最大の小麦生産地であるから従つて品種改良に力を入れているが、最近二〇%増産新種の育成に成功した、と述べた後、小麦の作付制限(一ブッシュェル当り一・七七の政府補償)によつて隔年生産するから、スイートクローバーを緑肥と雑草抑制の目的で輪作にとり入れると同時に、小麦を高く刈りて株を残し土壌の流亡防止に重点を置いて管農をやつている。つまり増産と制限の矛盾に立っているわけだが、酪農肉畜

その他全く行詰つている。この打開は大規模経営以外にない。従つて男子学生には農業を経営するなど説き、女子学生には金持ちと結婚せよと教えるのだ。となかなか深刻な話であつた。事実女子学生は自分の結婚相手を物色するために大学へきているという噂であつた。

## 牧草と園芸 十一月号 目次

- ◇表紙写真 今年もライジボンキンは豊作 (雷印上野幌育種場)
- ◇アメリカの草地みてある記 その(四)……上家 富成……二
- ◇北海道酪農に何を学んだか……北海道酪農視察団……七
- ◇酪農経営とカブ作り……続 省三……八
- ◇蔬菜地帯における酪農三カ年の歩み……辻村 福男……一〇
- ◇草地改良を阻害しているもの……門馬 二三……三
- ◇温暖地における養畜農家の夏作飼料作物栽培 完……水島 隆……四
- ◇季節の作業 果樹、蔬菜、飼料…………七

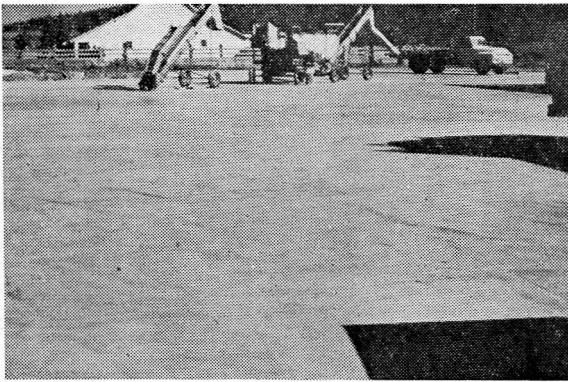
イ、ブルグラス等)のことや大学附属の Wawawai 農場や Seed House の見学であつた。また Dr. Peterson はアルファルファの品種について、Dr. Canobe は雑草駆除、Dr. Marcarian は育種の目的に関する話で何れも完全な専門的講義であつた。相次ぐ見学者の訪問で客すれのせいか仕方なきような先生方の講義であつたが、われわれは丘の上に向つて坂道の構内へ一週間も通つたのであつた。ただ一番印象に

残ったものは、アメリカの最も大切な食料、それは緑の草である。というポスターであった。早朝は霜が降り水が凍つていてウィスコンシンの紅葉よりさらに秋が深かった。それだけに郷愁も一際であつた。伊勢湾台風の新報は九月二十八日で死者一、一〇〇人、行方不明二、五〇〇人、総被害八〇万戸と信じられないほどの数字で一行の心は暗澹たるものであつた。

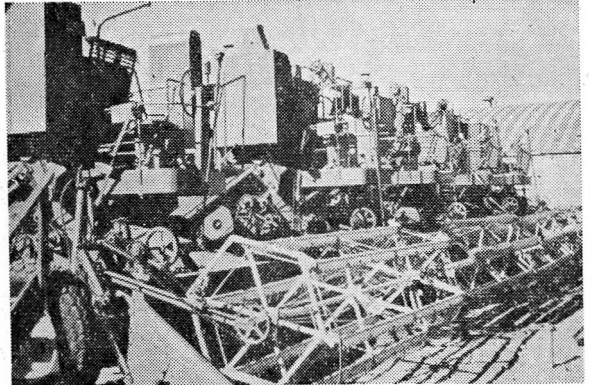
## ジャックリン種苗会社

スポケーンの Jacklin Seed Co. は西海岸随一の規模を持つ種苗会社だということである。総面積二、二〇〇エーカー(四四〇町歩)で生産種子の三分の二は直営または委託、三分の一は農家からの自由買取でありローングラスを主体にしているという。

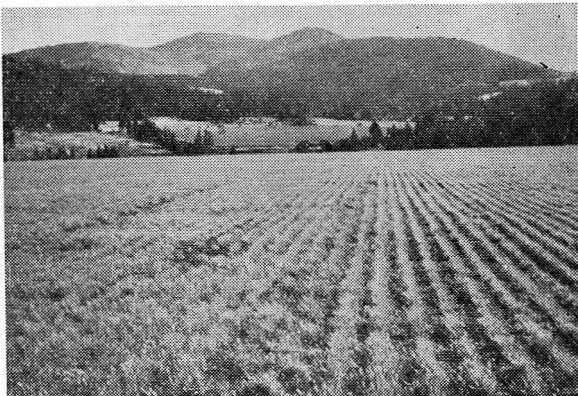
参考までにこの附近の種子生産を調べると、アルファルファとレッドクローバーはともに一エーカー六〇〇磅(反当一五〇磅)ラデノクローバーは一エーカー三〇〇磅(反当七五磅)でわれわれから見ればこれが平均数字であるだけに、正に驚異的な種子生産でさすがに採種適地だと頷かれるのである。なおわれわれが会つた人々のラデノクローバーの発音は総てラダイノクローバーであることを参考に附記しつぎの設備に移ることにしよう。これら膨大な生産種子の収穫には一台の使用に一六、〇〇〇磅の費用を要する一二〜一四畝の大型新式コンバイン九台を持ち、その一台の能力は八時間稼働で草刈では五町歩、麦刈では二五町歩(袋詰)の驚くべき偉力なのである。こ



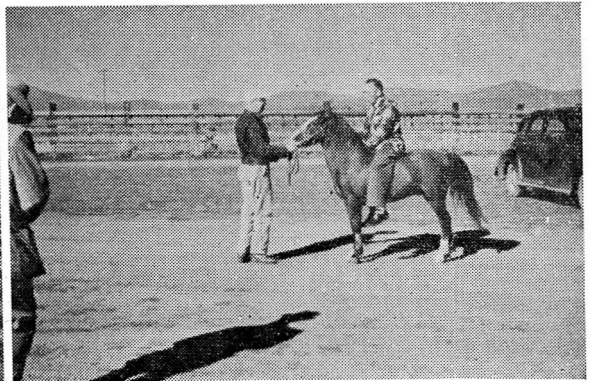
ジャックリン種苗会社の屋外乾燥場、コンクリート床の下1インチの処に裸熱線が6インチ幅に走っており、この床がF 120°~130°になる。この上に種子袋を並べて乾燥する。



雄大なコンバイン9台の行列、1台1日小麦25町歩の刈取処理ができるという。ワシントン州ジャックリン種苗会社自慢の機械。



ワシントン州ジャックリン種苗会社の採種圃場の一部  
草はコンモンケンタッキーブリューグラスの改良種デルタブリューグラス。



英国ウエールズより輸入のポニーの種牡馬3,500ドルその他繁殖牝馬60頭を持ち全米の8番目、これがジャックリン種苗会社の副業である。

(乗馬してたわむれるワシントン州立大学の先生)

の収穫物は広い屋外電熱乾燥場で乾燥する。その装置の概略は要するにコンクリート厚さ四尺の庭で乾す仕組みなのであるが、このコンクリートの地表一尺下に六尺幅に並べた熱線に電流を通じタイムスイッチで一分毎に交代調節し袋の温度がF一二〇〜一三〇度位、すなわち手で触れられる程度の温熱乾燥をするわけなのである。また灌水設備においては六カ所の水源池から一分間に八、五〇〇ガロン(二七〇石)の強大な撒水ができて全地の八・五割まで行渡る能力を備えている。そしてこれらの全く桁はずれの生産設備に相応の完全倉庫や精選工場を完備しているのは説明の限りではなく、総て羨ましいの一語に尽きる次第であつた。

取引先はシャトルでは Lyle 会社、サンフランシスコでは Boleman 会社が主であるが、今年のは作況も良好なので二五〇万磅(九億円)は大丈夫だろうと社長の話であつた。

これらの自慢の他に副業経営の愛玩用馬ポニーの生産があり基礎牝馬六〇頭を所有し全米第八位だそうであるが、売却仔馬は大體一頭一、三〇〇磅(四六万八千円)位であるというから六

○頭では二千八百万円の計算になる副業である。われわれが拝見した種牡馬は英国ウエルズ産で三、五〇〇ポンドというから一跨ぎの小馬一頭が一二六万円もするわけである。

かようにジャックリン氏は豪勢な個人種苗会社の社長さんなのである。

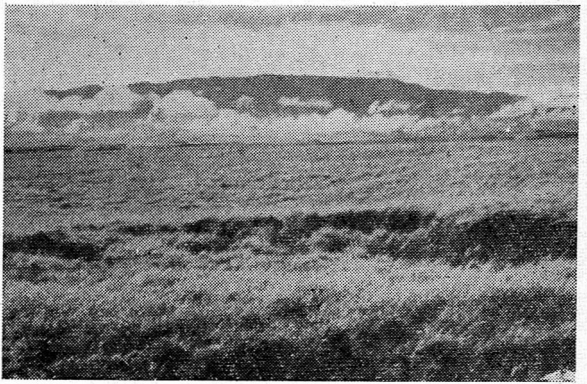
## 大陸の終着地ポートル

ンド

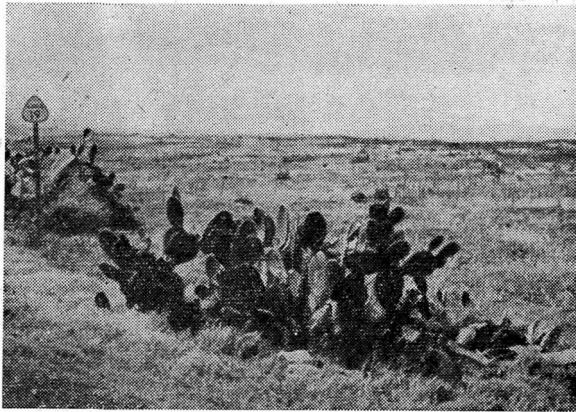
一〇月三日、Pon-Tets という間の子飛行機でポートルランド市に向つた。大陸の旅路の終る日に素晴らしいカスケード山脈の国立公園を空から眺めながらの旅は何とも幸せな土産であつた。

巨大な森林の彼方、霞む雲上に白雪を被り、巍然と聳ゆるのはレイニヤ山(一四、四一〇呎)、大森林の処々噴煙と見ゆるは落雷による山火事で、五年越し燃え続けた記録もあるという。落下傘部隊で有名な森林消防隊の活躍する処であろう。そして札幌市との姉妹市でバラの都といわれまた丸太造り世界一の博物館をもつポートルランド市(稚内市同緯度)空港に到着した。処がここに待っていたのは意外にもハワイ行の座席予約がないという問題であつた。通訳も有終の美を飾るべく三時間におよぶ最善の交渉をやつたが結極埒があかず、とにかく一泊と定めホテル・ペンソンへ着いたのは夕方であつた。

その夜日本料理屋で菊正宗の特級酒に加州の白米、天ぷらに味噌汁、漬物など五〇有る日振りに故国の味をしみじみと嘯みし



ハワイ島マニアキー (13,784 フィート) 山麓の放牧地、ペンゴラ・グラス、キクキューグラス、ブロームグラス、バスバラン等の混播牧草。



ハワイ島パーカー牧場の一部である。3-4 呎の高さになつていいるサボテン。この地帯は火山灰で荒廃し利用されていない。

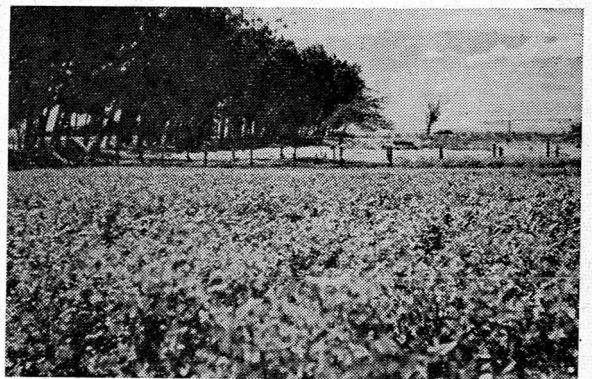
めたのは忘れられない味であつた。それで聊かうつ積っていた郷愁やとんがりも幾分軽くなつたようであつたが、翌日はやはりハワイ行について甲論乙駁した結果、ようやく確保できた六名が先行し残二名はさらに一日遅れて出発と決定した。そしてくじ引の末自分は二名の中の一人名となつた。また二名の通訳も二カ月の永い旅行の意なかつたことを謝し再びワシントン首都に向い、ここで東西に別れを惜しんだのであつた。

今大陸を離れるに当り二カ月に至つた思い出の二、三を備忘のため書き留めてハワイに渡りたいと思う。

### (一) 芝生のこと

家庭では男の共通的な責任の仕事に芝生の手入れがある。われわれは行く先々どこでも実に良く管理され素晴らしい芝生ばかりを見た。この芝生はすなわち芝生学であり造園学だと思ふ。ミンシッピー大学のワイズ博士が自慢した芝生は本当に生きたじゆうたんであつた。その見本圃には一三種類が並べられいづれが優と定め難いものであつたが、その審査要点は、(1)草の色合、(2)感触、(3)稠密度、(4)耐病虫害性、(5)拡張速度、(6)生長速度等である。草の色合を良くするグラス・ダイという染料まで使うと聞いている、全く熱の入れる度合も解らうというものである。

### (二) 自動車のこと



ハワイ島パーカー牧場の牧草地、アルファルファーが美事に生育している。先方の山は富士山より高いマウナーキ山。



ハワイの生産物の最高は砂糖であつて、工場に運ぶ砂糖黍のマンモス運搬車が田舎道を横行している。写真はその圃場

(1) 大小の別こそあれ捨てられた自動車の墓場をよく見かけたが日本の土産になりそうなものもある。アメリカではスクラップにする人夫賃の方が高いのだそうだ。

(2) ドライヴ・インという自動車に乗ったまま見る野外劇場が田舎にある。見て楽しむのか雰囲気を楽しむのか自動車のお客に聞いて見るはかないらしい。

(3) 道路横断では絶対人間優先なことは青の他に歩けと字が出る四段換えの信号でもわかるが、信号がなくても必ず車を停めて早く渡れと合図する点、罰金も厳しいが徹底もしている。

### (三) 自動販買機のこと

農機具を始め一事が万事機械づくめの中でも自販機の発達は大変なものだ。三分間できてくる三枚一組二五セントの撮影機、煙草、飲料水、ガム、はては音楽まで売れる何でもござれである。一〇セント入れて七セントの切手がでる切手販買機はマージン稼ぎもする代物である。

## ハワイ

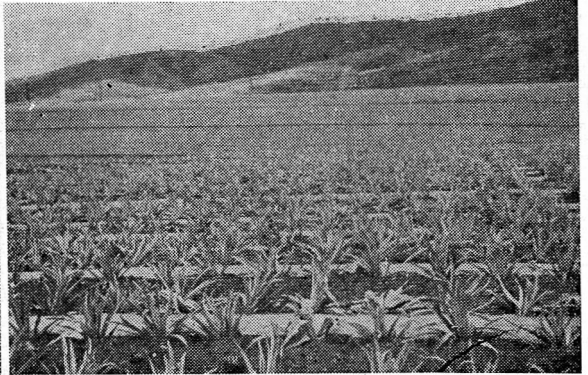
### (一) ハワイと観光

八月一二日往路立寄つたホノルルと一〇月六日帰路のホノルルの人々には、全くなんの違つた処もなく原色の派手なアロハ、女の着るはずんどうの引摺るように長いムーム、レイの花輪、カナカ族の土人等種々雑多な風俗の国、常夏のハワイは確かに世界の楽園の一つであろう。

ハワイ諸島(大小八島)の人口は五七万人、その中の邦人は一六万人である。一〇



ハワイ島カホク牧野の開墾風景、ブルトーザで強引に倒木整理し、ここに牧草地を造る計画。



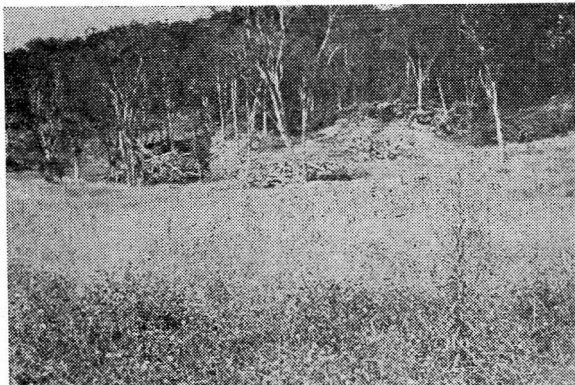
パイナップルを新しく植付けた所の状況、横の覆はビニールを使用し水分の発散を防止する目的、20カ月で第1回の収穫をし、その後12カ月で第2回の収穫をして更新する。

月一日をもつてハワイ州に昇格し日系二世の井上氏が州初代の合衆国下院議員に当選し万丈の気を吐き歴史の一頁を飾つたのである。

それは第二次世界大戦において日系二世の第四二部隊がイタリア戦線で決死的な偉功を立て、全員金鶏勲章を贈られ、今ではその多くがパンチボールの墓地に安らかに眠っているのである。彼等の赫々たる武勲が州制への多くを物語っていると伝えられていることは、強くわれわれの胸を打つことなのである。

ハワイの生産序列は、砂糖一億五千万ガ、パイナップル一億二千万ガ、家畜二千五百万ガ、その他コーヒー等であるが、観光は七千万ガで収益の第三位に在り、大きな役割を果している。

州の字名はアロハ(ALOHA)でありその意味は仕合せ、幸福という。その観光とアロハが示す通りオアフ島(Oahu)ホノルル市の南端ダイヤモンドヘッド(噴火口跡)の見えるワイキキビーチは純白に光る砂に寝そべつての甲ラ乾しや、紺碧の海の白い波乗りに興ずるなど明日を忘れる楽園なのである。またアロハ・エアラインで二時間、大小四つの島を越えて行くハワイ島では、富士山より高いマウナキー(二三、七八四尺)から吹降ろす涼風にたわむれる牛



ハワイ島カホク牧野、切り開かれた密林跡に栽培されている牧草地、ケンランド、サブタレニアン、ケンヤホワイト各クローバー類ブラック・メデイック、アルファルファ等の苜蓿およびペンゴラ、キクキュー等の禾本科の混播状況

群と遊び、それと相對峙する休火山マウナロア(一三、六八〇尺)の山麓に立てば、黒一色に被れた一望の熔岩原に殺気が迫り、あるいは国立公園キラウエヤ・ボルカノの物凄い噴火口など何れも豪華な観光ができるのである。

ーランを珍賞し、レイの花オケットやプロメリヤ、ジンジャーなどの薫風にむせ、クロテンの紫葉から眼を転ずれば、木に咲く花アラメンダーやレインボーシャワー、オヒヤ等かずかずの黄花赤花の観賞をし、また巨大なサボテンの可憐な花を愛し、コーヒのつぶらな赤い実を楽しむ等、南国の夢が四季を通じて客を呼んでいるのである。

そして渴を覚えれば、生のパイナップル、ヤシの実、パイヤ、マンゴー等喉を潤す果物に不自由はないのである。

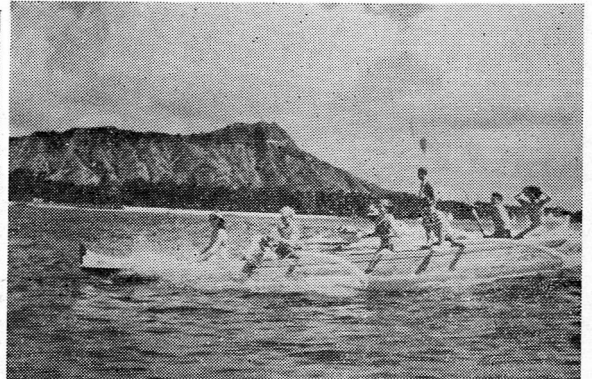
観光の最高は有名なフラダンスである。海浜に在るジャングルのような巨大な椰子林に囲まれた深緑の芝生の上で、カナカ土人の娘達が踊るのである。赤銅色の肌に黒髪を長く垂れ、レイを頭と首にかけ、緑濃いジンジャーの葉を腰に巻いてスカートにした姿で、休みなく次々と踊るのである。太鼓の音は鈍く歌は眠く踊は単調であるが異郷の風情は百パーセントである。そして踊の最後の傑作は自分の首のレイをお客の首に掛けて、アロハのキスをすることであるが、しかしこれにあやかる幸運者は二、三人しかいないので、アロハの意味がわかる任組になつていとうがつた話もあるハワイである。

## (二) ハワイの草地

案内の先生は、草地管理の専門技術員で日系二世の保坂技師と陳博士で研修の全日程はハワイ島であつた。そのハワイ島の高峰マウナキー山の中腹七、〇〇〇呎位から麓一帯にかけ、三〇万エーカー(一二万町歩)の Parker Ranch は牛三万頭(全ハワイ一六万頭)を飼育する全米第二位の大きさを誇る大牧場である。牧場主パーカーの本職は歌手で三〇万(一億八百万円)ほどの収入がある人だというから、この牧場は Luxury Ranch であらう。火山熔岩等で不耗地帯も相当あるが、それにしても一頭当たり二、三町歩の広さだから極めて粗放経営だといえる。しかし近年草地造成に取組み亜熱帯特有の草種の導入に成功し、着々内容の充実を図つていける模様であるから、将来素晴らしい立派な大牧場が完



ホノルルのワイキキ浜で踊るカナカ土人娘の舞踊団。



ホノルルのワイキキ浜でカヌーに興ずる人々。先方の山はダイヤモンドヘッド。

成せられるものと期待されるのである。つぎに Kahoku Range は総面積一六万エーカー(六四、〇〇〇町歩)でその多くが傾斜地の密林であり、目下倒木から整地等専ら開墾拡張作業中であつたが、この牧草試験圃は将来が約束されるような草のできであつたこと以外に特記すべき事柄はないようであつた。

ハワイにおいての主なる草種は、ペンゴグラス、キクユグラス、ネビヤグラス、パスバラン、アルファルファ(ブラック・メディックおよびヘアリーベルビアン)でその他部分的にはオーチャードグラス、ブROOMグラス、コンモンバリーミューダーグラス、ケンヤホワイトクローバー、スパニッシュクローバー等がある。この特有草草はいずれもアフリカから導入されたもので、種子生産はほとんどないものであるから苗による増殖が行われ、従つて一時に大面積の草地改良は望めない。また日本での利用価値も余り効果的なものは見当たらないが、ここで二、三について性状の概要を述べることにしよう。

### (一) ペンゴグラス

Pangola Grass は南アフリカの原産でアメリカではフロリダに最も大きな生産地帯がある。ハワイでは一九五二年に大学の農場で試作した結果稍々湿潤な土地に好適であるとの結論が出され漸次牧場で取入れられるようになった。草丈は四呎位で永年生であり匍匐茎は一〇〜二〇呎に達し数カ月優秀な品質を保つことができ。また雑草を制圧したり土壌浸蝕の保護に有効である。肉生産についてはパーミューダグラスやバヒヤグラスに似た成

績である。混播の豊科牧草はパーズフット・トレイルまたはスパニッシュ・クローバーが良い。

### (二) キクユ・グラス

Kikuyu Grass はアフリカのケンヤ地方の高原に生育し降雨量四〇〜六〇形、華氏五五〜六四度の温度に適している。一九三八年にハワイ農業試験場で栽培され逐次牧場に増殖されてきたが、極めて頑丈な永年生匍匐型の牧草であつて、その利用は若刈に限るようである。普通この増殖は三〜四形に切断した匍匐茎を撒いて発根させるが、三、〇〇呎位の高度で極く短い草丈の中に少量の種子を発見することができる。

### (三) ネビヤ・グラス

Najapier Grass または Elephant Grass はスーダングラスとかテオシントに良く似た草であつて、ハワイの酪農家は青刈飼料として利用しているが収量多く栄養価高く嗜好性も極めて良い草である。草丈は一四〜一四呎に達しエーカー当たりの収量は四〇〜六〇トで、普通三〜四回刈を行つている。乳牛は一日に一ト〜一七〇磅食べるが一月当たり一頭一ト位である。これは四呎近く離して並べ植えるが普通溝灌漑を行つている模様である。

さて、アメリカの草地や旅日記の断片を拙くも綴ってきたが、二カ月にわたつて先進国の膨大な内容は、到底述べ切れそうにもない。しかしまあ、聊かも参考にとる処があれば尚ほこの上もない幸甚である。おわりに、酪農日本建設のために草地造成や、その管理技術の急速な進展を祈念して已まない次第である。(完)

(雪印種苗取締役東京支店長)